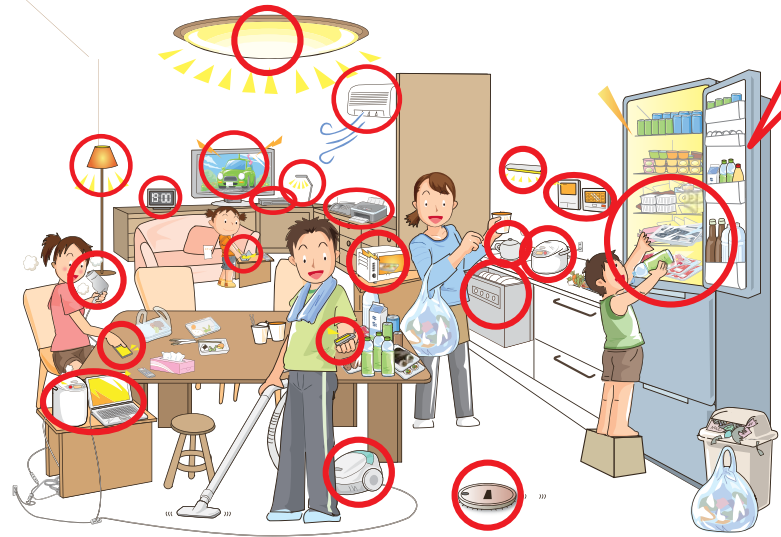




【ねらい】今の私たちの便利で快適な生活の中で、昔と比べてたくさんのエネルギーを使用していることを気づかせるとともに、そのエネルギーの多くが石油や石炭などの化石燃料に依存しているエネルギーの現状について考えさせます。

現代の私たちの暮らし



【資料解説】このイラストは、私たちが毎日の暮らしの中で、多くのエネルギーを使っている様子を表したものです。

●スイッチ一つで便利で快適な今の生活

今の生活は、スイッチ一つで電気やガスなどを使うことができますし、さまざまな電気製品を使うことで、便利で快適な生活をするできるようになっています。

また、食生活をみてもコンビニエンスストアやスーパーで既に調理済みのパック詰めの食品や冷凍食品を買ってきて、電子レンジで温めることで、手軽に食事することができます。（電気製品は、エネルギーをすぐイメージできますが、それ以外にも、パック詰め食品のプラスチック容器やレジ袋の製造や輸送、ゴミの処理など、様々な場面でエネルギーが使われています。）

●エネルギーをあまり使わない昔の生活

一方、昔の生活では、今のような電気製品もなかったため、食事づくりや風呂炊き、洗濯などの家事は大変な重労働でしたし、生活に便利なコンビニエンスストアやスーパーもありませんでした。

しかし、その分、エネルギーをあまり使わず、自然を生かしていたことが昔の住まいや暮らしの写真等からもうかがえます。（資料53～資料58参照）

●エネルギーは有限

このように、今の生活は、昔と比べ便利になった分、エネルギーを大量に消費しているわけですが、エネルギーは無限にあるわけではなく、このまま使い続ければ、エネルギーを作り出す石油は約54年、石炭は112年でなくなってしまう（2011年末時点）と言われています。（参考：「原子力・エネルギー」図面集2013）

●4.4%しかない日本のエネルギー自給率

特に、日本のエネルギーの状況をみると、昔（1960年）は石炭や水力などの国内の天然資源を活用して、約6割（58%）を確保できていましたが、石炭から石油への燃料転換が進み、石油が大量に輸入されるようになると、石炭も輸入中心に移行して、エネルギー自給率は大幅に低下し、今では日本で使うエネルギーの4.4%しか確保できない状況（2010年時点）となっています。（参考：エネルギー白書2013）

加えて、エネルギーは、災害時にはその供給が断たれてしまうことがあるということを東日本大震災を通じて、私たちは改めて実感しました。

大量消費の生活から変わりつつある中、自然を生かしていた昔の生活における様々な知恵や工夫を学び、限られたエネルギーをいかに効率よく使いながら、便利で快適な生活をしていくかを考えていかなければなりません。

※資料53～58の昔の住まいや暮らしの写真等と照らし合わせながら、暮らし（家事）の場面ごとに使用する道具やそれに使うエネルギーを考えます。
例えば、「調理」の場合、道具はかまど⇒ガスコンロ・IH調理器・電子レンジ、エネルギーは木⇒ガス・電気と
いうように押さえていきます。
○（赤丸）で囲んだ部分に着目しながら見ていくと、エネルギーが多く使われているようすが分かります。

【関連する各教科の学習内容】

	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
社会	○地域の人々の生活 ○飲料水、電気、ガスの確保				【地理】 ○世界と比べた日本の地域的特色（資源・エネルギーと産業）		【公民】 ○私たちが国際社会の諸課題（地球環境・資源・エネルギー問題） ○私たちが国際社会の諸課題（よりよい社会を目指して）
理科				○電気の利用			○エネルギー ○科学技術の発展 ○自然環境の保全と科学技術の利用
技術・家庭(技術)					Bエネルギー変換に関する技術 ○エネルギー変換機種の仕組みと保守点検について		
家庭					○住生活の工夫		
技術・家庭(家庭)				○快適な住まい方 ○環境に配慮した生活の工夫	○家庭生活と環境		